

3 年 A 組 特別活動 題材設計・学習指導案

指導者 丸山 佑樹

1 日時（場所） 12 月 15 日（水） 11:50～12:40（3 年 A 組教室）

2 題材設計（題材名：自分の生き方を考えよう）

(1) 本題材で育成したい自立と共生の力

- よりよい社会や自分の姿を思い描く力
- 自分の気持ちや考えを表現し、伝える力
- 問題の解決に向け、自ら考え、見通しを持って行動する力

(2) 題材目標

- 社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義や、現在の学習と従来の社会・職業生活とのつながりをつなげるために、必要な知識及び技能を身に付けている。
- 現在の自己の学習と将来の生き方や進路についての課題を見いだし、主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することについて、適切な情報を得ながら考え、自己の将来像を描くことができる。
- 将来の生き方を描き、現在の生活や学習の在り方を振り返るとともに、働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとしている。

(3) 題材の評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に集団活動や生活を よりよくしようとする態度
社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義を理解している。 現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考え、自分らしい生き方の実現を図るために、必要な知識及び技能を身に付けている。	自分らしい生き方の実現に向けて、現在の学習や将来の進路についての課題を見い出すことができる。 主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献すること、自己の将来について、適切な情報を収集して考え、意思決定して実践している。	将来の生き方を見通したり、これまでの生活や学習を振り返ったりしようとしている。 働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己表現を図ろうとしている。

(4) 指導計画（全 4 時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	評価規準（評価方法）
学級活動 1	これまでの生き方を振り返ろう ・これまでの人生をグラフに表したものを基に他者と話し合うことを通して、自分の生き方を振り返る。	思考 態度	・自分らしい生き方の実現に向けて、自分の見方・考え方や自分が大切にしている価値観を見いだしている。 （ワークシート） ・人生グラフを書くことを通して、これまでの生活経験を振り返ろうとしている。 （ワークシート）
学級活動 2	これからの生き方を考えよう① ・名前の由来や漢字の字源などから、自分の名前に新たな意味づけをすることを通して、これからの生き方を考える。	知識 思考	・親の思いを受け止めつつ、自分らしい生き方を実現していくことの意義を理解している。 （観察・ワークシート） ・自分の名前に新たな意味づけをすることを通して、自己の将来について考えている。 （ワークシート）

学級活動 3 本時	これからの生き方を考えよう② ・名前の新たな意味付けを伝え合うことを通して、自分の生き方について考える。	思 態 ・名前の新たな意味付けを伝え合うことを通して、他者の価値観に学び、自分の生き方を考えている。 （観察・ワークシート） ・多様な他者と、互いの考えを積極的に伝え合うことを通して、自分の将来への見通しを持つようとしている。 （ワークシート）
卒業記念行事	卒業文集を書こう ・これまでの学級活動を振り返りながら、卒業文集に書く内容を考えることを通して、自分が成長したことやこれからの生き方を明確にする。	思 態 ・自分らしい生き方の実現に向けて、現在の学習や将来の進路についての課題を見い出して文章にまとめている。 （観察・文集原稿） ・前向きに将来の生き方を見通したり、これまでの中学校生活を振り返ったりしようとしている。 （観察・文集原稿）

3 本題材と研究主題との関わり

(1) 生徒について

本学級の生徒（32 名）は、高校受験を控えた中学 3 年生である。これまでに高校見学や体験入学、高校説明会などを通して、進学に対する具体的なイメージを持ったり、高校生活への憧れを抱いたりしてきた。今は進学を希望する高校を決定する時期にあり、教育相談や個別懇談を通して、高校生活はもちろん高校卒業後の進路選択も見通しを立てるなど、自己の将来を考え始めている。アンケートでは「将来なりたい自分の理想像やこう生きたいという考えがある」という質問に対して 30 名が「なんとなくある」「明確にある」、また、「将来やりたいことの方角性や職業が決まっている」という質問に対して 25 名が「なんとなく決まっている」「明確に決まっている」と回答した。将来について考えなければならない時期において、今後の自分の人生をどのように築いていくかを考えようとしていることが分かった。

しかし、「自分の将来が楽しみか」という質問に対して、6 名が「全く楽しみではない」「楽しみではない」と回答し、その内数名の生徒は前述した、「将来の方角性や職業」「自分の理想像」に関する質問においても否定的な回答をしている。このことから、卒業後の進路を考える時期にあり、前向きな展望を持てなかったり、具体的にイメージすることができなかったりする生徒もいることが分かった。特別活動における持続可能な社会の実現に貢献する実践者とは、自己の課題を解決したり将来の生き方を描いたりするために意思決定し、自主的に実践することができる者である。本題材を通じて、自己の将来に対して前向きな展望を持ち、将来への見通しを持って自己実現に向かう力を育成したいと考えている。

(2) 題材について

本題材は受験や卒業を間近に控えた中学 3 年生が、これまでの生活や人生を振り返るとともに、自己の将来について考えを深める題材である。卒業記念行事の一つである卒業文集「蒼丘」の原稿を作成する活動に向けて、中学校生活でどのような経験をしたか、それらを通してどんな力を身に付け成長したか振り返ったり、これからどのような生き方をしていきたいか考えたりする。これらの活動を通して、自己理解を深め、前向きに自己実現に向かうことができると考えている。

また、本時の活動は、自分の名前を教材として扱う。使われる漢字の意味や言葉の響き、画数などを熟考して決められた名前は、親の願いや思いが込められたものである。その親の思いを知った上で、自分が名前をどのように解釈し、自分なりの意味付けをした名前にどのような意志を見いだすかが重要である。この活動は、これからの生き方を考える時期にある生徒にとって、名前の解釈を通じて自分はどのように生きていきたいかを考えられる意義深い活動であると考えられる。

(3) 「深い学び」の実現に向けた指導の工夫について

特別活動の授業において「深い学び」を実現するためには、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせて様々な集団活動を通して、多様な人間関係の築き方や、集団の発展に寄与すること、よりよい自分を追求することなどを学ぶ必要がある。本題材において、「深い学び」を実現するために以下のような指導の工夫を行う。

ア メタ認知力を高めるリフレクション

深い自己理解のためには、俯瞰して自らを客観的に認知するメタ認知の力が必要である。メタ認知力を高めるために、経験したことから学びを得るためのリフレクションを充実させる。リフレクションとは、自分の内面を客観的、批判的に振り返る行為である。「認知の4点セット¹」の考えを用いたリフレクションを行う。「認知の4点セット」は、事実や経験に対する自分の判断や意見を「意見」「経験」「感情」「価値観」に分けて考えるものである。これによって、自分の内面を多面的に分析・整理することができる。

本題材においては、主に学級活動1でこの方法を用いる。これまでの人生を振り返って満足度を数値で表す（意見）際、どの経験を取り上げるか（経験）、その経験にはどのような感情が紐付けられていたか（感情）、その意見には自分のどのような価値観やものの見方が存在しているか（価値観）を客観的に分析する過程でメタ認知力を高め、深く自己を理解させる。

イ 対話的な学びの充実

他者との対話においても前述したリフレクションの「認知の4点セット」を活用し、相手の意見の背景にある判断基準やものの見方・考え方に注目する。対話によって、多角的な見方ができるようになり、独りよがりな認知の視野を広げ、より深い学びを実現するものであると考える。そこで対話を充実させるために、相手の感情や価値観を引き出すための「共感コミュニケーション²」や国語科を中心に学習している「三角ロジック」、全校で取り組んでいる「言語技術」の手法を用いて、自分の考えを論理的に整理したり、他者に分かりやすく伝えたりさせる。

本時では、特に「共感コミュニケーション」の時間を大切にしたい。これは、「ゆっくり話す」「じっくり耳を傾ける」「自己内対話を静観する」などを意識しながら対話することで、他者と信頼関係を築きながら自分の考え方や価値観を見いだしていくコミュニケーションの手法である。これによって、受容的な雰囲気の中で、他者の価値観に触れ、自分の視野を広げ、考えを豊かにすることができると考えた。

さらに、教師はファシリテーターとしての役割を担い、全体での生徒同士の対話を深めるための支援をする。教師がよりよい方向に導くのではなく、生徒たちの意見の交流を密にすることで、多様な意見や価値観が表出されるよう支援をする。

¹ 熊平美香（2021）「リフレクション自分とチームの成長を加速させる内省の技術」ディスカバー・トゥエンティワン

² アンドリュー・ニューバーク、マーク・ロバート・ウォルドマン（2020）「心をつなげる相手と本当の関係を築くために大切な『共感コミュニケーション』12の方法」東洋館出版社

4 本時の指導（3／4時間）

(1) 題材 これからの生き方を考えよう。

(2) ねらい

名前の新たな意味付けを伝え合うことを通して、これからどのように生きたいか自分の考えを持つことができる。

(3) 展開

学習活動 (形態)	時間	○教師の働きかけ ・予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準（評価方法）
1 卒業に向けての課題と本時の課題を確認する。 (一斉)	5	○卒業に向けて、解決していく課題を確認しよう。 次の空欄に当てはまる言葉を書き入れなさい。ここでの最後の問い。 君のいない明日からの日々を「僕は／私はきっと□□□□□□□□□□□□」	○課題への意欲を高めるために、卒業記念合唱で歌う曲の歌詞を最終課題に設定する。
2 名前の新たな意味付けを伝え合う。 (小集団) ↓ (全体)	20 (10) (10)	○前時に考えた自分の名前に新たな意味付けをしたものを紹介し合おう。 ・「佐藤心太郎」の心という字は、五文字の名前の真ん中にある。自分の真ん中にある心「真心」を大切に生きていきたい。 ・「阿部愛子」の阿は「おもねる」、愛は「相手の心を読み取ろうとする様」という意味。相手に気に入られたいという素直な気持ちに嘘をつかず、相手の心を読み取って愛のある行動ができる人になりたい。	○話し合いを通して、各自の考えを更に深めるために、共感コミュニケーションを行わせて、他者の考え方や価値観を引き出すよう指示する。
3 価値観に迫る。 (個人) ↓ (ペア) ↓ (全体)	20 (5) (5) (10)	○自分がこれからの生き方において大切にしようとしていることは何だろう。 ・今まで以上に心の誠実さを大切に生きていこうとしている。 ・自分中心の考え方だったけど、愛を持って他者のために生きようとする考え方を大切にしたい。 ・周りに合わせて生きてきたけど、自分の考えを貫く生き方をしていきたい。	○自己の将来に前向きな展望を持つために、過去を振り返ったり、理想とする見方・考え方について考えたりした前々時の活動を想起させる。 ◎これからの生き方について自分の考えをまとめている。 (観察・ワークシート)
4 本時の学習を振り返ってまとめる。 (個人)	5	○本時の活動を通して考えたことをまとめよう。 ・自分の名前に新たな意味を見いだすことで、自分がどう行きたいか考えることができた。 ・他の人の価値観を知ることによって、自分にはない考え方ができるようになった。	○本時の活動を通して得た学びを、卒業文集に生かすよう声掛けする。
授業研究の視点		○共感的コミュニケーションや言語技術を用いて対話することが、深い学びの実現につながっているか。	